

## 医療系国家試験における 「関係法規・社会保障」分野の横断的考察

森 本 敦 司

東海学院大学人間関係学部心理学科

### 要 約

医師、歯科医師、薬剤師、看護師をはじめ医療系の国家資格には基礎・臨床を問わずさまざまな分野からの出題があるが、直接医療行為にかかわる科目や医療系の専門科目だけが出題範囲ではない。医療従事者として業務を行うに当たって知っておかなければならない付随的な知識も問われることがあるが、そのなかの代表的なものとして「関係法規」や「社会保障」の分野が挙げられる。当該領域が出題範囲とされない医療系国家資格はないものと思われるが、しかしながら、実際の授業科目においては、「関係法規」と置いているものもあれば、社会保障論の一部に法規を包括するもの、安全管理の一部として取り込まれているもの、あるいは「公衆衛生」や「医療管理」などの科目の一部において取り扱っているものもある。

「関係法規」という、医療系国家資格ではある意味特殊な分野としてみられようが、総論としての法規の成り立ちやその見方、ガイドラインや指針について、各論としては「目的」「業務内容」「義務」「試験・免許」など、横軸を通じて共通する事柄を抽出することも可能なように思われる。「社会保障」に関する知識などはほとんど共通するものといえようか。

そこで本研究の目的としては、最終的には全医療系国家資格に共通する「関係法規」「社会保障」に関わる知識・教授内容の体系化を図ることを最終のねらいとしながら、とりあえず筆者自身がこれまで実際に授業等で対応した5つの国家資格について（薬剤師、歯科医師、臨床工学技士、救急救命士、言語聴覚士）、その関係法規・社会保障分野の出題の特色等を取り上げ、今後の横断的研究の序論とする。

**キーワード：**医療系国家資格 関係法規 社会保障

### 1. はじめに 問題の所在

厚生労働省のウェブサイトを見ると、「資格・試験情報」のコーナーに、医療、医薬品、健康関連の資格として、医師、歯科医師、保健師、助産師、看護師をはじめとして実に22種類の資格試験についてその試験の施行等について紹介されている。試験で問われる範囲は基礎や臨床にかかわるものであるが、（たとえば医師国家試験ではその内容について「临床上必要な医学及び公衆衛生に関して、医師として具有すべき知識及び技能」とされる）、関係法規ないしは社会保障制度に関する出題もみられる。いわばこの領域は医療系の国家試験でありながら文系の知識が問われるところであり、筆者はこれまで、国家試験ではないが、短期大学で医療秘書養成に携わっていたとき、関連資格試験の出題範囲に「医療関係法規」があることを知った。その後6年制薬学部に移り、薬剤師の国家試験では単独で「薬事関係法規」の科目があり、一分野として出題されており、授業ならびに国家試験対策を受け持った。同様に歯学部においても当該分野はカリキュラムの一領域を構成し、担当した「医事法学」の科目では後述のコアカリキュラムの内容にそったかたちで

必要な法律を解説した。

平成26年度より本学に移ってからは、救急救命士、言語聴覚士、臨床工学技士養成に係る「社会保障論」「関係法規」などの科目を担当しているが、医療系国家資格に共通する「社会保障・関係法規」のモデルカリキュラムの提供、さらには全ての医療系資格に共通する「社会保障」と「法規」の横断的に考察し医療系の国家資格に共通する最大公約数的に必要な知識を網羅することができないかどうか模索し、取り急ぎ研究の端緒として、これまで教育養成に関係した5つの医療系国家資格について、以下に横断的にまとめてみることにした。

ところで、どの資格にも、国家試験に係る出題基準が策定されているが、この中に網羅される「関係法規」「社会保障」に関する項目を拾い上げるのはもちろんのこと、薬剤師や歯科医師についてはそれぞれの教育に関して「モデル・コアカリキュラム」も制定されているので、ここに掲げられる教育目標等についても研究の対象とする。なお、「関係法規」「社会保障」以外にも当該領域に関連性の深い「倫理」にかかわる項目も広く取り上げる。

## 2. 各種医療系国家試験で問われる「関係法規・社会保障」分野の範囲について

### ① 薬剤師

「薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによつて、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものと」され（薬剤師法第1条）、「薬剤師になろうとする者は、厚生労働大臣の免許を受けなければならない。」（同第2条）「薬剤師の免許は、薬剤師国家試験に合格した者に対して与え」（同第3条）、その「試験は、薬剤師として必要な知識及び技能について行なう」（同第11条）ものとされる。薬剤師法施行規則第8条には試験科目として、「薬剤師国家試験を分けて必須問題試験及び一般問題試験とし、一般問題試験を更に分けて薬学理論問題試験及び薬学実践問題試験とし、その科目は、それぞれ次のとおりとする。

必須問題試験：物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務。一般問題試験：（薬学理論問題試験）物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、（薬学実践問題試験）物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務」

いずれの出題形式においても「法規・制度・倫理」は国家試験の出題範囲に含まれている。（下線部分筆者）

かつて、4年制薬学生を対象とした薬剤師国家試験では、法学に関連する知識は「薬事関係法規及び薬事関係制度」という出題科目として位置づけられ、240問中20問が出題されていたが、平成23年度より実施されている、6年制薬学生を対象とした国家試験では全体で345問が出題され、必須問題として90問中10問、一般問題（薬学理論問題）として105問中10問、さらには、一般問題（薬学実践問題）として、「実務」の領域に係る実践的な資質との複合問題として20問中10問が出題されている。

試験の準拠となる「薬学教育モデル・コアカリキュラム」では、薬事関係法関連科目は「薬学と社会」の領域に位置づけられ、その一般目標に「社会において薬剤師が果たすべき責任、義務等を正しく理解できるようになるために、薬学を取り巻く法律、制度、経済および薬局業務に関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的技能と態度を身につける」とある。さらにその中の一項目に「（1）薬剤師を取り巻く法律と制度」があり、その一般目標に「患者の権利を考慮し、責任をもって医療に参画できるようになるために、薬事法、薬剤師法などの医療および薬事関係法規、制度の精神とそ

の施行に関する基本的知識を修得し、それらを遵守する態度を身につける」とある。従来にも増して同科目の重要性が明記されている。

なお、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」は平成25年度に改訂版を公表したが、一部他の領域との整合を行い、現行のものは以下のとおりである。

（同モデル・コアカリキュラムについては文部科学省 [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/01\\_d/08091815.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/01_d/08091815.htm) より入手可能である。）

### 【B薬学と社会】

GIO 人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保健・医療・福祉に係る法規・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。

#### （1）人と社会に関わる薬剤師

GIO 人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と薬剤師の関わりを認識する。

1. 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。
2. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。（態度）
3. 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。（態度）
4. 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。（態度）
5. 倫理規範や法令に則した行動を取る。（態度）

#### （2）薬剤師と医薬品等に係る法規

GIO 調剤、医薬品等（医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の供給、その他薬事衛生に係る任務を薬剤師として適正に遂行するために必要な法規とその意義を理解する。

#### 【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規】

1. 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。
2. 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。
3. 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。
4. 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。
5. 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。
6. 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。

7. 個人情報の取扱いについて概説できる。
8. 薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。

【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】

1. 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品）、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の定義について説明できる。
2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。
3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。
4. 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。
5. 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。
6. 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。
7. 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。
8. 日本薬局方の意義と構成について説明できる。
9. 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。
10. 健康被害救済制度について説明できる。
11. レギュラトリーサイエンスの必要性和意義について説明できる。

【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】

1. 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。
2. 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。
3. 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。

（3）社会保障制度と医療経済

GIO 社会保障制度のもとで提供される医療と福祉について、現状と課題を認識するとともに、薬剤師が担う役割とその意義を理解する。

【①医療、福祉、介護の制度】

1. 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。
2. 医療保険制度について説明できる。
3. 療養担当規則について説明できる。
4. 公費負担医療制度について概説できる。
5. 介護保険制度について概説できる。

6. 薬価基準制度について概説できる。
7. 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。

【②医薬品と医療の経済性】

1. 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。
2. 国民医療費の動向について概説できる。
3. 後発医薬品とその役割について説明できる。
4. 薬物療法の経済評価手法について概説できる。

（以上、薬学系人材養成の在り方に関する検討会『薬学教育モデル・コアカリキュラム 平成25年度改訂版』（平成25年12月25日）より）

薬剤師国家試験は平成27年度で第101回を数えるが、「薬剤師国家試験出題基準」に基づき出題される。本出題基準は、薬剤師国家試験制度改善検討部会の議論を経て、上記「薬学教育モデル・コアカリキュラム」等の内容を基本とし、医学・薬学の進歩と現状を踏まえて策定される。

（薬剤師国家試験出題基準については、

<http://www.mhlw.go.jp/stf2/shingi2/2r9852000000tabj-att/2r9852000000tad0.pdf> より入手可能である）

薬剤師国家試験出題基準【法規・制度・倫理】

（※「関係法規・社会保障」に関わる項目のみを抜粋）

〔大項目〕薬学と社会

〔中項目〕薬剤師を取り巻く法律と制度

〔小項目〕医療の担い手としての使命（倫理的責任、民事責任・刑事責任・行政責任、インフォームド・コンセントの定義・必要性、個人情報の保護）

〔小項目〕法令の構成（薬剤師に関連する法令の構成）

〔小項目〕薬事法（薬局、医薬品等の製造販売業及び製造業、登録認証機関、医薬品の販売業及び医療機器の販売業等、医薬品等の基準及び検定、医薬品等（毒薬および劇薬、医薬品、医療機器、化粧品、医薬部外品）の取扱い、医薬品等の広告、生物由来製品の特例、監督、指定薬物の取扱い、希少疾病用医薬品及び希少疾病用医療機器の指定等、雑則、罰則）

〔小項目〕薬剤師法（薬剤師の任務、薬剤師免許、薬剤師国家試験、業務、罰則）

〔小項目〕医療法（医療法の目的、医療に関する選択の支援等、医療の安全の確保、病院・診療所及び助産所、医療提供体制の確保、罰則）

〔小項目〕医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法（医師・歯科医師の任務・保健師助産師看護師法の目

的、業務)

〔小項目〕血液供給体制(採血・献血・血液製剤)

〔小項目〕管理薬に関する規制(麻薬、向精神薬、覚せい剤、覚せい剤原料、大麻、あへん)

〔小項目〕毒物および劇物に関する規制(毒物、劇物)

〔中項目〕薬害と副作用被害

〔小項目〕健康被害救済制度(医薬品副作用救済制度、生物由来製品感染等被害救済業務)

〔小項目〕薬害(薬害(サリドマイド、スモン、血液製剤、ソリブジンなど)の原因と社会的背景、薬害を防止するための手段)

〔小項目〕製造物責任(薬剤師が関わる製造物責任の概要)

〔中項目〕社会保障制度と薬剤経済

〔小項目〕社会保障制度(日本における社会保障制度のしくみ、社会保障制度の中での医療保険制度の役割、介護保険制度のしくみ、高齢者医療制度のしくみ)

〔小項目〕医療保険制度(医療保険の成り立ちと現状、医療保険のしくみ、医療保険の種類、国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点、保険薬剤師療養担当規則・保険医療費担当規則、調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)、保険医療と薬価制度の関係、新規医薬品の価格を決定する要因)

〔小項目〕薬剤経済・医療統計(国民医療費の動向、医療費の内訳、後発医薬品(ジェネリック医薬品)の役割、医薬品生産金額、医療従事者数、医療施設数・薬局数、薬物治療の経済評価の意義・評価手法)

〔中項目〕地域薬局<省略>

〔大分類〕医薬品の開発と生産

〔中分類〕医薬品開発

〔小分類〕医薬品開発のコンセプト(医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子、希少疾病に対する医薬品(オーファンドラッグ)開発の重要性)

〔小分類〕医薬品の承認(医薬品の承認までのプロセス、非臨床試験の目的と実施概要、臨床試験の目的と実施概要、後発医薬品(ジェネリック医薬品))

〔小分類〕承認後の制度(再審査制度、再評価制度、副作用・感染症報告制度、市販直後調査)

〔小分類〕医薬品の製造と品質管理(医薬品の品質管理の意義と薬剤師の役割、医薬品製造における環境保全に配慮すべき点)

〔小分類〕規範(GLP(Good Laboratory Practice)、GCP(Good Clinical Practice)、GMP(Good Manufacturing Practice)、GVP(Good Vigilance Practice)、GQP(Good Quality Practice)、GPSP(Good

Post-Marketing Study Practice))

〔中分類〕治験

〔小分類〕治験の意義と業務(治験の意義、治験(第I、IIおよびIII相)の概要、治験審査委員会)

〔小分類〕治験における薬剤師の役割(治験における薬剤師の役割(治験薬管理者、治験コーディネーターなど)、インフォームド・コンセントと守秘義務)

〔大分類〕ヒューマニズム

〔中分類〕生と死(生命倫理)

〔小分類〕生命の尊厳(誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略、医療に関わる倫理的問題の概略、死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略)

〔小分類〕医療の目的(予防・治療・延命・QOL)

〔小分類〕先進医療と生命倫理(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療)

〔中分類〕医療の担い手としてのこころ構え

〔小分類〕社会の期待(省略)

〔小分類〕医療行為(ヘルシンキ宣言、医療の担い手が守るべき倫理規範、インフォームド・コンセントの定義と必要性、患者の基本的権利と自己決定権の尊重、医療事故回避の重要性)

〔小項目〕研究活動(省略)

〔小項目〕医薬品の創製と供給(省略)

〔小項目〕自己学習・生涯学習(省略)

〔中分類〕対人業務<省略>

医薬品に関する専門家ということで、医療関連法規以外に薬事法(旧称)、医薬品開発に関する法規、さらには薬害に関する項目があることも特色である。「法規・制度・倫理」で一領域を構成し、国家試験では、いわゆる「足切り」の対象ともなり、単に知識を問う問題だけではなく、実践問題では実務を意識した出題もなされている。

(※薬剤師国家試験問題の過去問題については、厚生労働省の次のサイトから閲覧可能である。

[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iyakuhin/yakuzaishi-kokkashiken/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iyakuhin/yakuzaishi-kokkashiken/index.html))

## ② 歯科医師

「歯科医師は、歯科医療及び保健指導を掌ることによつて、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものと」され(歯科医師法第1条)、「歯科医師になろうとする者は、歯科医師国家試験



に合格し、厚生労働大臣の免許を受けなければならない」(同第2条)とされる。同法第9条には、「歯科医師国家試験は、臨床上必要な歯科医学及び口くう衛生に関して、歯科医師として具有すべき知識及び技能について、これを行う」と定め、平成27年度で第109回試験が実施される。

現行の『歯学教育モデル・コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—(平成22年度改訂版)』では、当該領域について次のように定められる。

(※同モデルコアカリキュラムについては以下のサイトより閲覧可能である。

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2013/11/15/1324090\\_24.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/11/15/1324090_24.pdf))

## A 基本事項

### A-1 患者の尊厳

一般目標：患者の権利を熟知し、その現状と問題点を理解する。

到達目標：①患者の権利を説明できる。／②患者の自己決定権を説明できる。／③患者が自己決定ができない場合の対応を説明できる。

### A-2 医の倫理

一般目標：医療、歯科医療および医学・歯学研究における倫理の重要性を理解する。

到達目標：①医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。／②医の倫理に関する規範・国際規範(ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等)を概説できる。／③生と死に関わる倫理的問題を説明できる。

### A-3 歯科医師の責務

一般目標：歯科医師の義務と責任に関する基本的な知識、態度および考え方を身につける。

到達目標：①患者との信頼関係を築くことができる。／②個人的、社会的背景等が異なる患者に、わけへだてなく対応できる。／③患者の価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できる。／④患者に最も適した医療を説明できる。／⑤歯科医師の法的義務を列挙できる。

### A-4 インフォームドコンセント

一般目標：患者本位の医療を実践するため、適切な説明を行った上で、患者の主体的な同意を得るために必要な対話能力と態度および考え方を身につける。

到達目標：①インフォームドコンセントの意義と重要性を説明できる。／②必要な情報を整理し、わかりやすい口頭説明と文書を準備できる。／③説明を行うために適切な時期・場所・機会に配慮できる。／④説明を受け

る患者の心理状態や理解度に配慮できる。／⑤患者からの質問に適切に応え、その様々な反応に柔軟に対応できる。

## A-5 歯科医療における安全性への配慮と危機管理 A-5-1) 安全性の確保

一般目標：医療上の事故(インシデント(ヒヤリハット)、医療過誤等を含む)や医療関連感染症(院内感染を含む)等は日常的に起こる可能性があることを認識し、過去の事例に学び、事故を防止し、患者の安全確保を最優先することにより、信頼される医療を提供しなければならないことを理解する。

到達目標：①歯科医療における事故の特異性を説明できる。／②実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。／③医療上の事故等を防止するには、個人の注意力はもとより組織的なリスク管理が重要であることを説明できる。／④医療現場における報告・連絡・相談および診療録記載の重要性について説明できる。／⑤医療の安全性に関する情報(薬剤等の副作用、薬害や医療過誤等の事例(経緯を含む)、やってはいけないこと、優れた取組事例等)を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。／⑥医療機関における医療安全管理体制の在り方(事故報告書、インシデントリポート、リスク管理者、事故防止委員会、事故調査委員会等)を概説できる。／⑦医療の安全性確保のため、職種・段階に応じた能力向上の必要性を説明できる。／⑧医療関連感染症の原因および回避する方法を概説できる。

### A-5-2) 医療上の事故等への対処と予防

一般目標：実際に医療上の事故等(インシデント(ヒヤリハット)、医療過誤等を含む)が発生した場合の対処の仕方を身につける。

到達目標：①医療事故と医療過誤の違いを説明できる。／②医療上の事故等(インシデント(ヒヤリハット)、医療過誤等を含む)の事例の原因を分析し、防止対策を説明できる。／③医療上の事故等(インシデント(ヒヤリハット)、医療過誤等を含む)が発生した時の緊急処置や記録、報告について説明できる。／④医療過誤に関連して歯科医師に科せられた社会的責任と罰則規定(行政処分、民事責任、刑事責任、司法解剖)の基本的事項を説明できる。／⑤基本的予防策(ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセーフ・フルプルーフの考え方など)について概説できる。

## B 社会と歯学

### B-2 健康と社会、環境

#### B-2-1) 歯科医師法・関係法規

一般目標：歯科医師法および関連法規の基本的な考え方を理解する。

到達目標：①歯科医師法を概説できる。／②医療法を概説できる。／③歯科衛生士法と歯科技工士法を概説できる。／④医師法、薬剤師法および保健師助産師看護師法を概説できる。

## B-2-2) 保健・医療・福祉制度

一般目標：保健、医療、福祉、介護に関連する社会制度、地域医療および社会環境を理解する。

到達目標：①保健・医療制度を説明できる。【産業保健および医療供給体制を含む。】／②医療保険制度を説明できる。【医療経済（国民医療費）を含む。】／③介護保険制度を説明できる。／④社会福祉制度を説明できる。／⑤高齢者のおかれた社会環境を説明できる。／⑥障害者のおかれた社会環境を説明できる。／⑦ノーマライゼーションの考え方を説明できる。／⑧地域医療に求められる役割と機能および体制等、地域医療の在り方を概説できる。／⑨地域における保健・医療・福祉・介護の分野間の連携および他職種間の連携の必要性について説明できる。／⑩地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を説明できる。／⑪災害時の歯科医療の必要性について説明できる。

（以上、『歯学教育モデル・コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—（平成22年度改訂版）』より抜粋）

厚生労働省医政局歯科保健課が公表した『平成26年版 歯科医師国家試験出題基準』にはそれぞれの出題範囲について次のように項目が示される。

（※歯科医師国家試験出題基準は次のサイトから閲覧可能である。

[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryoku/iryoku/topics/dl/tp130329-01\\_01.pdf](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/iryoku/topics/dl/tp130329-01_01.pdf)

### 「必修の基本的事項」

#### 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム

ア 医の倫理、生命倫理（a 患者の人権と医療 b ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、ヒポクラテスの誓い c 守秘義務、プライバシーの尊重、法の遵守）

イ 歯科医師と患者。家族との関係（a 患者中心の歯科医療、インフォームド・コンセント、セカンドオピニオン b 患者の権利と義務 c 自己決定権）

#### 2 社会と歯科医療

ア＜省略＞

イ 歯科医療の社会的背景（a（省略）b 国民医療費）

ウ 保健・医療・福祉・介護の制度（a 歯科医師法 b 歯科衛生士法 c 歯科技工士法 d 薬事法 e 医療法 f 保険・医療・福祉・介護の各制度と職種 g 地域歯科保健活動で各職種の連携に関する制度）

エ 臨床試験・治験と倫理（a GCP＜医薬品の臨床試験の実施の基準＞ b 臨床研究、疫学研究の倫理指針）

#### 3 予防と健康管理・増進

ア 健康増進と疾病予防（a…b…c…d 健康日本21 e…）

イ 地域保健（a 地域保健法、地域保健体制 b 健康増進法 c 歯科口腔保健の推進に関する法律 d 8020 運動 e 健康危機管理）

ウ 母子保健（a 歯科保健診査 b 妊産婦・乳幼児の保健指導）

オ 産業保健（a 労働者の健康管理、トータルヘルスプロモーションプラン）

カ 成人・高齢者保健（a 特定健康診査、特定保健指導 b 健康増進事業、歯周疾患検診 c 介護予防（地域支援事業、予防給付） d 福祉・介護保険）

キ〜コ（省略）

#### 4 歯科医療の質と安全の確保

ア 医療の質の確保（a…b 患者説明文書 c 診療録開示 d クリニカルパス）

イ 医療事故の防止（a 医療事故と医療過誤 b 医療事故の発生原因 c 患者の安全管理（…） d 医療者の安全管理（…） e 医療危機管理＜リスクマネジメント＞ f ヒヤリハット、アクシデント、インシデント、医療事故報告書、インシデントレポート g 医療安全対策（医薬品・医療機器の安全管理））

ウ 院内感染対策（a…b…c 医療廃棄物処理 d…）

エ 医療裁判（a 医療紛争、賠償 b 医療訴訟（刑事裁判、民事裁判））

オ 医薬品・医療危機による健康被害（a 副作用・有害事象への対応（報告義務、治療、補償））

カ 血液・血液製剤の安全性（a 保管、管理）

#### 5 診療記録と診療情報

ア 診療録、医療記録（a 診療に関する記録（診療録、同意書、処方箋、検査所見記録、画像記録、手術記録、入院診療計画書、退院時要約、技工指示書、模型） b 診療録の管理・保存 c SOAP（主観的情報、客観的情報、評価、計画）

イ 診療情報（a 個人情報保護 b 診療情報の開示）

ウ 診断書（a 診断書、死亡診断書）

「歯科医学総論」

総論Ⅰ 保健医療論

2 保健・医療・福祉・介護関係法規（ア 医事衛生法規 イ 保健衛生法規 ウ 医療保健・社会福祉・介護保険関連法規 エ 予防衛生法規 オ 薬事衛生法規）

3 保健・医療・福祉・介護の仕組みと資源（ア 衛生行政の組織 イ 医療機関 ウ 福祉施設 エ 介護施設 オ 医療関係職種 カ 福祉・介護の制度と職種 キ 医療連携、チーム医療 ク 保険。医療。福祉・介護の制度と連携）

4 地域保健、地域医療（ア 公衆衛生活動、地域保健活動 イ 医療計画、健康増進計画 ウ ヘルスプロモーション エ 地域保健活動の進め方 オ 都道府県、市町村、保健所の歯科保健指導 カ プライマリケア キ かかりつけ歯科医機能 ク 救急・災害時等の歯科保健医療対策 ケ へき地医療 コ 在宅医療、在宅歯科医療）

5 歯科法医学（省略）

6 社会保障と医療経済（ア 社会保障制度 イ 医療保険、介護保険 ウ 医療経済と国民医療費）

総論Ⅱ 健康管理・増進と予防（※ 大項目のみ列挙）

2 母子保健、母子歯科保健／3 学校保健、学校安全、学校歯科保健／4 産業保健、産業歯科保健／5 成人保健、成人歯科保健／6 高齢者保健／7 精神保健福祉／8 障害者保健福祉…11 感染症対策／12 国民栄養と食品保健／13 環境保健

歯科医師国家試験ではA問題とC問題の範囲において（それぞれ130問ずつ出題）、関連法規や社会保障の分野でそれぞれ10問程度の出題数がある。医療保険や介護保険の基本的なしくみを問うものから、公衆衛生の領域から医療廃棄物の扱いについて問う問題、歯科医師法のみならず、歯科技工士法や歯科衛生士法からの出題、食育基本法や歯科口腔保健の推進に関する法律からの出題も見られる。

（※歯科医師国家試験の過去問題は以下のサイトから閲覧可能である。

第108回

[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryoku/iryoku/topics/tp150511-02.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/iryoku/topics/tp150511-02.html)

第107回

[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryoku/iryoku/topics/tp140512-02.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/iryoku/topics/tp140512-02.html)

第106回

[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryoku/iryoku/topics/tp130723-02.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/iryoku/topics/tp130723-02.html)

③ 救急救命士

「救急救命士」とは、厚生労働大臣の免許を受けて、救急救命士の名称を用いて、医師の指示の下に、救急救命処置を行うことを業とする者をい（救急救命士法第2条第2項）「救急救命士になろうとする者は、救急救命士国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けなければならない」（同法第3条）。救急救命士の「試験は、救急救命士として必要な知識及び技能について行われ」（同法30条）、「試験の科目は、次のとおりとする。

一 基礎医学（社会保障・社会福祉、患者搬送を含む。）／二 臨床救急医学総論／三 臨床救急医学各論（一）（臓器器官別臨床医学をいう。）／四 臨床救急医学各論（二）（病態別臨床医学をいう。）／五 臨床救急医学各論（三）（特殊病態別臨床医学をいう。）（同法施行規則第10条）平成27年度で第39回目の救急救命士国家試験が施行される。

国家試験の内容については『平成27年度版救急救命士国家試験出題基準』（平成27年3月30日 日本救急医療財団）に準拠する。同出題基準は、「救急救命士国家試験の「妥当な範囲」と「適切なレベル」とを項目によって整理したもので、救急救命士国家試験委員が出題に際して準拠する基準であり、「救急救命士学校養成所等での学習成果を中心とした救急救命士就業前の到達度を確認することに主眼を置く」ものであり、国家試験自体は「必修問題」と「一般問題」に分けられる。（同出題基準より）

以下、「関係法規・社会保障」に関わる項目を列挙するが、大項目、注項目のみを記すが、より当該分野に関わる詳細項目について必要と思われるものについては、小項目（以下ABC…で表示の箇所）備考（（）内に表示）を記す。

「必修」

Ⅲ 健康と社会保障

1 保健医療制度の仕組みと現状

（1）医療を取り巻く環境

（2）医療提供体制（A. 保健医療従事者／B. 医療機関（病院、診療所）／C. 医療計画（5 疾病・5 事業及び在宅医療、医療圏）

（3）精神保健福祉（A. 入院形態（措置入院、医療保護入院、緊急措置入院、応急入院）

2 社会保障と社会福祉を支える仕組み

(1) 社会保障・社会福祉の制度(A. 医療保険制度(健康保険の種類)／B. 介護保険制度(要介護認定、サービスの種類)／C. 高齢者福祉(介護施設、介護保険施設))

#### IV 救急医学概論

##### A 病院前医療概論

##### 1 生命倫理と医の倫理

(1) 生命倫理の原則と医の倫理の沿革

(2) 患者の権利(A. インフォームドコンセント／B. QOL<生活の質>／C. リビングウィル)

##### 5 救急救命士に関連する法令

(1) 救急救命士法(A. 法の制定と目的／B. 救急救命士の業務(業務を行う場所)／C. 救急救命処置の定義(診療の補助、救急救命処置の範囲、救急救命処置の変遷)／D. 特定行為(医師の具体的指示)／E. 義務(守秘義務、救急救命処置録))

(2) 医師法(A. 医師法の概要(医業の独占))

(3) 消防法(A. 消防法と救急業務(救急隊員、救急自動車、応急処置)／B. 搬送・受入れの実施基準)

#### 「専門基礎分野」

##### III 健康と社会保障

##### 1 保健医療制度の仕組みと現状

(1) 医療を取り巻く環境

(2) 医療提供体制(A. 保健医療従事者／B. 医療機関(病院、診療所、病床)／C. 医療計画(5 疾病・5 事業及び在宅医療、医療圏))

(3) 公衆衛生の仕組み(A. 公衆衛生の定義／B. 保健指標／C. 公衆衛生の関係行政(保健所(市町村保健センター)))

(4) 環境保健の仕組み

(5) 労働衛生の仕組み(A. 労働災害／B. 労働災害事故と関連疾患)

(6) 学校保健の仕組み(A. 学校保健管理／B. 学童の事故と疾病)

(7) 母子保健の仕組み(A. 母子保健指標／B. 母子保健指導(母子保健手帳)／C. 周産期医療体制)

(8) 高齢者を支える仕組み(A. 高齢者保健事業)

(9) 地域保健の仕組み(A. 健康増進(生活習慣病))

(10) 精神保健福祉の仕組み(A. 入院形態(措置入院、医療保護入院、緊急措置入院、応急入院)／B. 人権擁護(精神保健指定医)／C. 関連施設)

##### 2 社会保障・社会福祉を支える仕組み

(1) 社会保障・社会福祉の仕組み(A. 社会保障、社会福祉の理念(国家扶助)／B. 関係行政組織(福祉事務所)／C. 関連施設(老人福祉施設)／D. 社会保

障の費用(医療費、社会保障給付費と国民負担率))

(2) 社会保障と制度(A. 社会保険制度の理念／B. 医療保険制度(健康保険の種類)／C. 介護保険制度(要介護認定、サービスの種類)／D. 年金制度(年金の種類))

(3) 社会福祉と制度(A. 生活保護(医療扶助)／B. 児童福祉／C. 知的・身体障害者福祉(身体障害者手帳)／D. 高齢者福祉(介護施設、介護保険施設)／E. 虐待防止)

#### 「専門分野」

##### I 救急医学概論

##### A 病院前医療概論

##### 1 生命倫理と医の倫理

(1) 生命倫理の原則と医の倫理の沿革(A. 生命倫理に関する原則／B. ヒポクラテスの誓い／C. ジュネーブ宣言／D. ヘルシンキ宣言／E. リスボン宣言)

(2) 患者の権利(A. インフォームドコンセント／B. 意識のない患者の権利／C. 法的に無能力な患者の権利／D. 患者の意思に反する処置／E. QOL<生活の質>／F. リビングウィル(生前意思表示、DNAR)／G. 臓器提供(臓器移植、脳死)

##### 5 救急救命士に関連する法令

(1) 法令の基本(A. 倫理と法律(法律、政令、省令、告示、通知))

(2) 救急救命士法(A. 法の制定と目的／B. 国家資格としての救急救命士(名称の独占、業務の独占)／C. 救急救命士の業務(業務を行う場所)／D. 救急救命処置の定義(診療の補助、救急救命処置の範囲、救急救命処置の変遷)／E. 特定行為(医師の具体的指示)／F. 義務(守秘義務、救急救命処置録)／G. 罰則)

(3) 医師法(A. 医師法の概要(医業の独占))

(4) 保健師助産師看護師法(A. 保健師助産師看護師法の概要(診療の補助))

(5) 消防法(A. 救急業務の沿革(消防法による法制化)／B. 消防法と救急業務(救急隊員、救急自動車、応急処置)／C. 搬送・受入れの実施基準)

(6) 医療法(A. 医療法の概要)

(7) その他の法令(A. 死亡者に関する法令／B. 精神障害者に関する法令／C. 酩酊者に関する法令／D. 行旅病人、生活保護適用患者に関する法令／E. 麻薬中毒者等に関する法令)

救急救命士国家試験は午前A問題 127 問、午後B問題 23 問、C問題 7 問、D問題 43 問の計 200 問が出題されるが、当該分野に関してはA問題を中心に 5～7 問程度が出題されている。

#### ④ 言語聴覚士

「言語聴覚士」とは、厚生労働大臣の免許を受けて、言語聴覚士の名称を用いて、音声機能、言語機能又は聴覚に障害のある者についてその機能の維持向上を図るため、言語訓練その他の訓練、これに必要な検査及び助言、指導その他の援助を行うことを業とする者をい（言語聴覚士法第2条）、「言語聴覚士になろうとする者は、言語聴覚士国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けなければならない」とされる（同法第3条）。「試験は、言語聴覚士として必要な知識及び技能について行」われ（同法第29条）、試験の科目は、次のとおりとする。一

基礎医学／二 臨床医学／三 臨床歯科医学／四 音声・言語・聴覚医学／五 心理学／六 音声・言語学／七 社会福祉・教育／八 言語聴覚障害学総論／九 失語・高次脳機能障害学／十 言語発達障害学／十一 発声発語・嚥下障害学／十二 聴覚障害学（同法施行規則第10条）平成27年度には第18回目の言語聴覚士国家試験が施行される。

医療研修推進財団監修『言語聴覚士国家試験出題基準（平成25年4月版）』（医歯薬出版株式会社 平成25年）によると、「関連法規・社会保障」にかかる出題範囲は「Ⅶ 社会福祉・教育」の章に、次のように定められる。

##### 1 社会保障制度

A 社会保障と社会福祉（a 考え方（理念、地域福祉、利用者の利益の保護など） b 動向）

B 社会保障の体系と範囲（a 社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生及び医療（一般保健、学校保健、母子保健、精神保健、老人保健を含む）

C 社会保障を構成する各制度（a 年金 b 医療保障（医療保険、公費負担制度、医療扶助など） c 介護保険 d 労働者災害補償保険 e 雇用保険 f 社会手当 g 公的扶助 h 社会福祉 i その他関連制度）

D 社会福祉を構成する各法規（a 社会福祉法 b 児童福祉法 c 老人福祉法 d 障害者基本法 e 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法 旧 障害者自立支援法） f 身体障害者福祉法 g 知的障害者福祉法 h 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 i 発達障害者法 j 生活保護法 k その他関連法）

E 障害者に関する施策と実施体制（a 手帳制度（身体障害者手帳など） b 障害認定 c 福祉用具（補装具、日常生活用具など） d 障害者計画）

F 社会福祉援助施設〔小項目省略〕

G 社会保障の実施体制（a 社会保険 b 公衆衛生 c 社会福祉）

##### 2 リハビリテーション概論＜省略＞

#### 3 医療福祉教育。関係法規

A 関係職種と法規（a 言語聴覚士法 b 医事法規（医療法、医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法など） c 保健・福祉関係職種と法規（社会福祉士・介護福祉士など） d 教育関係職種と法規（特別支援教育など） e その他（法の体系、個人情報保護法など）

言語聴覚士国家試験は午前100問、午後100問の5肢択一の問題形式からなるが、当該分野に係るものと思われる出題は第16回から第14回までの3年間で見てみると6問から10問程度の出題がある。関連法規よりかは社会保障制度からの出題が多くだされている。

#### ⑤ 臨床工学技士

「臨床工学技士」とは、厚生労働大臣の免許を受けて、臨床工学技士の名称を用いて、医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とする者をい（臨床工学技士法第2条第2項）、「臨床工学技士になろうとする者は、臨床工学技士国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けなければならない」とされる（同法第3条）。臨床工学技士の国家「試験は、臨床工学技士として必要な知識及び技能について行」われ（同法第10条）、試験の科目は、次のとおりとする。一

医学概論（公衆衛生学、人の構造及び機能、病理学概論及び関係法規を含む。）／二 臨床医学総論（臨床生理学、臨床生化学、臨床免疫学及び臨床薬理学を含む。）／三 医用電気電子工学（情報処理工学を含む。）／四 医用機械工学／五 生体物性材料工学／六 生体機能代行装置学／七 医用治療機器学／八 生体計測装置学／九 医用機器安全管理学（同法施行規則第10条）

平成27年度には第29回目の臨床工学技士国家試験が施行される。

平成25年3月実施の国家試験から適用される『平成24年版臨床工学技士国家試験出題基準』によると、「関係法規・社会保障」に関わる出題範囲は以下のとおりである。

##### I 医学概論

##### （1）臨床工学に必要な医学的基礎

1 医学概論（（1）医の倫理（①患者の権利と自己決定権 ②インフォームドコンセント ④守秘義務、プライバシーの保護 ⑥尊厳死、安楽死 ⑦情報開示）／（3）医療事故の防止（①患者の安全 ②医療者の安全 ③医療安全管理 ④医療廃棄物 ⑤院内感染対策）／（4）社会と医療（①QOL ②チーム医療 ③個人情報保護法）

2 公衆衛生（…（3）保健活動（③感染症の予防対策 ④精神保健 ⑤母子保健 ⑥老人保健 ⑦学校保健 ⑧労働保険 ⑨保健・医療・福祉・介護の施設と機能）…（5）社会保障制度（①社会福祉 ②社会保険 ③医療保険 ④国民医療費））

3 関係法規（（1）医事（①臨床工学技士法 ②医師法 ③保健師助産師看護師法 ④医療法／（2）薬事、保健（①薬事法 ②健康増進法 ③感染症に関する法律 ④廃棄物処理法 ⑤毒物劇物取締法 ⑥臓器移植法））

#### IV 医療機器安全管理学

##### （1）医療機器の安全管理

9 関係法規等（（1）臨床工学技士法（①臨床工学技士基本業務指針）／（2）医療法（①改正医療法 ②医療機器完全管理責任者）／（3）薬事法（①医療機器の定義 ②医療機器の危険度における分類 ③医療機器の再評価制度）／（4）製造物責任法（PL法）／（5）各種通知（①立会いに関する基準））

国家試験自体午前90問、午後90問合計180問と少ない出題数の関係か、当該分野からの出題はそう多くはない。特に近年は2から4問程度の出題にとどまる。しかしながら医療機器を取り扱う専門家であることを考えると、新しく制定された医薬品医療機器等法はもとより、製造物責任法などはぜひ知っておきたい法律であると思われる。

### 3. 各種医療系国家試験における「関係法規・社会保障」分野の横断的考察

以上が、筆者自身がその関連科目を担当した5つの医療系国家資格の「関係法規」と「社会保障」に関わる「モデルコアカリキュラム」、「国家試験出題基準」等の概説である。薬剤師国家試験では、薬剤師が医薬品にかかる専門家であるということで、薬局や調剤報酬、麻薬、向精神薬などの管理薬、医薬品の開発等に関する出題が多くみられ、また歯科医師国家試験では、歯科医療に関わる諸政策や歯科技工士法、歯科衛生士法、食育基本法、歯科口腔保健の推進に関する法律などからの出題があることが特色である。また、同様に救急救命士国家試験では消防法や救急救命士法（特定行為に関する事項）、言語聴覚士国家試験では福祉に関わる出題が、臨床工学技士国家試験では医療機器の取り扱いと安全性に関する出題が、それぞれの医療専門職に特有の業務に関する知識を問うものとして当然に出題範囲とされているものの、とりえず5つの医療系国家資格にかぎって見ててもおおむね次のような項目立てで、各国家試験に共通する

事項を横断的に提示することができようか。

#### （1）法と倫理

##### ・医療倫理

医の倫理にかかる諸原則（ヒポクラテスの誓い ジュネーブ宣言 ヘルシンキ宣言 リスボン宣言…）

##### ・医療にかかる基本問題

QOL インフォームドコンセント 憲法13条（患者の人権・自己決定権） 同25条（生存権）

##### ・医療倫理をめぐる諸問題

生命倫理 リビングウィル 生殖医療 代理出産 安楽死・尊厳死 臓器移植・脳死 …

#### （2）関係法規

##### ・関係法規概説

法の一般原理 法の種類（公法と私法） 法の形式（法律・政令・省令） ガイドライン・指針 通知・通達 条文の構成と法律用語解説

##### ・法的責任と医療事故

裁判と和解 民事責任 刑事責任 行政責任 ヒヤリハット 医療事故・医療過誤 医療事故調査

##### ・医療従事者と法 総論

医療従事者の法の構成（目的・定義・免許・試験・業務）

医師法 歯科医師法 保助看法 薬剤師法

##### ・医療従事者と法 各論

業務独占・名称独占 特定行為 守秘義務

##### ・医療施設と法

医療法の目的 医療施設（診療所・病院） 特定機能病院 地域医療支援病院 病床の種類

##### ・医療の安全の確保と法

広告の規制 情報の提供 医療安全支援センター

##### ・医療計画と法

医療法改正 医療計画 5疾病5事業 在宅医療 地域医療 医療従事者の確保

##### ・医薬品・医療機器と法

医薬品医療機器等法 医薬品・医療機器等の定義 指定薬物 薬局と医薬品販売業 製造販売と製造販売業

代表的な薬害（サリドマイド スモン 薬害C型肝炎 薬害エイズ クロイツフェルトヤコブ病）血液製剤

##### ・管理薬・薬品と法

毒薬・劇薬 麻薬及び向精神薬取締法 覚醒剤取締法 あへん法 大麻取締法 毒物及び劇物取締法

##### ・医療情報と法

診療録 診療記録 医療記録の電子化 保存年限 守秘義務 個人情報保護法・ガイドライン

#### （3）社会保障



・社会保障制度概説

憲法 25 条との関連性 社会保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生 社会保障費用統計 国民医療費

・社会保険（１）医療保険

医療保険の意義 医療保険の仕組み 保険医療機関 診療報酬の仕組み 保険給付の内容 公的負担

・社会保険（２）介護保険

介護保険の意義と目的 介護保険の仕組み 要介護認定 介護サービスの種類 介護保険の財源

・社会保険（３）年金保険

公的年金の意義 年金の仕組み 年金の種類と給付内容

・社会保険（４）労働保険

労働保険の意義 労災保険の種類と給付 雇用保険の種類と給付

・社会福祉

社会福祉の意義 社会福祉法 児童福祉法 児童虐待防止法 老人福祉法 母子及び父子並びに寡婦福祉法 DV 防止法 身体障害者福祉法 知的障害者福祉法 障害者総合支援法 発達障害者支援法

・公的扶助

生活保護の概況 生活保護制度の現状と課題 生活困窮者自立支援法

・公衆衛生

公衆衛生の仕組み 地域保健法 予防接種法 感染症予防法 学校保健安全法 母子保健法 健康増進法 高齢者の医療の確保に関する法律 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律

以上のように（１）法と倫理、（２）関係法規、（３）社会保障の３領域に分類して項目立てをしたが、もっとも、いずれの国家資格からの出題かによって、分野による強弱があることは否めない。今後はさらに他の医療系国家資格の出題基準も取り込みながら、より詳細な横断的考察を試みたいと思う。

## 参考文献

- ・薬学系人材養成の在り方に関する検討会『薬学教育モデル・コアカリキュラム 平成 25 年度改訂版』（平成 25 年 12 月 25 日）
- ・厚生労働省「薬剤師国家試験出題基準」（平成 22 年 10 月 13 日一部訂正）
- ・モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会・モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会『歯学教育モデル・コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—（平成 22 年度改訂版）』
- ・厚生労働省『平成 26 年版 歯科医師国家試験出題基準』（平成 23 年 3 月）
- ・日本救急医療財団『平成 27 年度版救急救命士国家試験出題基準』（平成 27 年 3 月 30 日）
- ・医療研修推進財団『言語聴覚士国家試験出題基準（平成 25 年 4 月版）』（医歯薬出版株式会社 平成 25 年）
- ・臨床工学技士国家試験出題基準作成委員会『平成 24 年版 臨床工学技士国家試験出題基準』（平成 23 年 9 月）

## 参考 URL 文献

- ・厚生労働省「資格試験情報」  
[http://www.mhlw.go.jp/kouseiroudoushou/shikaku\\_shiken/](http://www.mhlw.go.jp/kouseiroudoushou/shikaku_shiken/)
- ・「薬学教育モデル・コアカリキュラム」  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/01\\_d/08091815.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/01_d/08091815.htm)
- ・「薬剤師国家試験出題基準」  
<http://www.mhlw.go.jp/stf2/shingi2/2r9852000000tabj-att/2r9852000000tad0.pdf>
- ・「薬剤師国家試験過去問題」  
[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iyakuhin/yakuzaishi-kokkashiken/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iyakuhin/yakuzaishi-kokkashiken/index.html)
- ・「歯学教育モデル・コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—（平成 22 年度改訂版）」  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2013/11/15/1324090\\_24.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/11/15/1324090_24.pdf)
- ・「平成 26 年版 歯科医師国家試験出題基準」  
[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuu/topics/dl/tp130329-01\\_01.pdf](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/topics/dl/tp130329-01_01.pdf)
- ・「歯科医師国家試験過去問題」  
第 108 回  
[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuu/topics/tp150511-02.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/topics/tp150511-02.html)  
第 107 回  
[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuu/topics/tp140512-02.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/topics/tp140512-02.html)  
第 106 回  
[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuu/topics/tp130723-02.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/topics/tp130723-02.html)
- ・「一般社団法人日本言語聴覚士協会」  
<https://www.jasht.or.jp/>
- ・「公益社団法人日本臨床工学技士会」  
<http://www.ja-ces.or.jp/ce/>
- ・「公益財団法人医療機器センター」  
<https://www.jaame.or.jp/index.php>
- ・「一般社団法人日本救急救命士協会」  
<https://www.paramedics.jp/>

**Lateral Study on the Area of "Laws and Regulations"&"Social Security"  
in National Examinations for medical qualifications**

MORIMOTO, Atsushi